

**渡辺博道復興大臣による
外国メディア向けブリーフィング
(2019年3月8日 フォーリン・プレスセンター)**

皆様、こんにちは。復興大臣の渡辺博道です。本日は、東日本大震災からの復興の現状と展望をお伝えする機会をいただき、ありがとうございます。

東日本大震災の発災、そして東京電力福島第一原発事故から、間もなく8年を迎えます。

改めて、震災によって亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、ご遺族の方々、今なお避難生活を続けておられる方々に、お見舞い申し上げます。

(1. 外国からの支援への感謝)

発災直後から現在に至るまで、160 を超える国・地域や、40 を超える国際機関から、様々な形でご支援をいただきました。

被災地の人々は、皆様からのご支援があったからこそ、前に進むことができました。

あらためて感謝を申し上げます。

(2. 復興のいま)

昨年10月に復興大臣を拝命し、私は、ただちに福島県、岩手県及び宮城県の知事にお会いするとともに、53の被災市町村を訪問し、被災地の復興の状況を、見てまいりました。

その中で、まちのにぎわいが出始めているところもあるなど、復興が着実に進展していると感じました。

一方で、避難指示が継続されている地域もあるなど、復興の進捗具合は、地域差があることを、改めて認識しました。

また、被災者の心のケアやコミュニティの形成、子育て世代が帰還できる環境の整備、産業・なりわい生業の再生など、それぞれの地域に応じ、きめ細かい対応が必要であると実感しました。

こちらの写真をご覧ください。

地震・津波で被災した地域については、生活に密着したインフラの復旧はおおむね終了し、住まいの再建も今年度中におおむね完成する見込みです。復興は、着実に進展しています。

復興の「総仕上げ」に向けて、2020年度までに復興をやり遂げるという決意の下、復興の加速化に取り組んでまいります。

福島原子力災害被災地域についても、避難指示が解除された地域において、小中学校の再開や、医療機関の開設が進むなど、復興・再生に向けた動きが本格的に始まっています。

福島の「本格的な復興」に向けて、一日も早いふるさと再生と帰還実現のための取組を進めてまいります。

（3. 福島のいま）

これは、福島県と世界の各都市との空間線量率の比較です。福島県の空間線量率は、海外の主要都市とほぼ同水準です。

日本には、47の都道府県があります。福島県は、そのうちのひとつです。原発事故による避難指示が出ているのは、福島県全体の面積の2.7%にすぎません。福島県の大部分では、通常の生活が営いとまれています。

食品中の放射性物質の基準について、日本は、世界で最も厳しいレベルの基準を設定して検査をしております。また、基準を超えた場合は、市場に流通しないようになっております。

（４．福島イノベーション・コースト構想）

日本政府は、福島イノベーション・コースト構想として、浜通り地域等に新たな産業基盤の構築を目指しております。

国際的な 廃炉研究開発拠点やロボット、ドローンの研究開発・実証拠点を開設したり、太陽光発電由来の、CO2 フリーの水素を製造する世界最大級の施設が建設される予定です。

（５．ラグビー・ワールドカップ及び「復興五輪」）

さらに明るい話題としては、本年は、ラグビー・ワールドカップが岩手県の うのすまい 鵜住居 復興スタジアムにおいても開催されます。

また、来年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のときに、宮城県の宮城スタジアムでサッカーの試合が、福島県のあづま球場で野球やソフトボールの試合が行われます。

このような機会に、海外の皆様にも、復興しつつある被災地の姿や、被災地の魅力を「知って」もらい、被災地の産品を「食べて」もらい、被災地に「来て」もらいたいと思っています。

この観点から、「復興五輪」海外発信プロジェクトとして、私をはじめ、副大臣や政務官が手分けをして、震災に対してご支援をいただいた各国の在京大使とお会いし、復興しつつある被災地の姿等をお伝えしております。

みなさまにも、機会を捉えて、東北を訪れていただければと願っております。

本日はありがとうございました。 (1574字)